

[自然と人間の共生/春の小川プロジェクトニュースレター]

# 春の小川通信

Vol.4



水

と

生

き

物

平成23年2月12日(土)、カワヨグリーンロッジにて33名の参加者のもと、春の小川プロジェクト研修会が開催されました。

木ノ下小学校校長を最後に定年退職されてから、現在は南八甲田の保全や小川原湖のマリモの生態を研究するなど、パワフルに活動されている、人・自然・教育研究所所長の川村正氏を講師に迎え「水と生き物」と題し、ご講演をいただきました。

はじめに、水は常に地球上を循環しています。この循環を汚染し断ち切ることは、人間のみならず全ての生物の首を絞めることになる…というお話にドキリ!としました。蛇口をひねればいつでも出てくる水ですが、無駄に使いすぎれば足りなくなるということをあらためて実感しました。

川村氏のお話によると、八甲田山の存在はとても有り難いものだということが解ります。八甲田山に積もった雪が融けて私たちの住む県南に水を届けてくれています。ヤマセ雲が南八甲田の地域に霧雨・小雨を降らせ、これが地下に浸透して地下水となっているのです。奥入瀬原流水は水質Aランクの湧水となっていて、川村氏のご家庭でも煮沸冷却して飲料水に利用しているそうです。

しかし、青森県内は湿原の宝庫であるものの、ここ40年ほどで気温の上昇や降雪・降雨の減少、ヤマセ襲来の減少など天候不順で、湿原の乾燥化が進んできているのです。このままでは、貴重な生物が消滅してしまいます。また、昔と現在では生き物が変わってきているようです。その背景に、川や池の埋め立てによる生息地の減少、山里の荒廃、猟師の減少や農薬汚染問題等によるものがあげられます。

そこで「ビオトープ」を作ろうという活動が全国でみられるようになったようです。

ビオトープの基本は水があること、用水路や池の周囲・底が土であることが最低限必要となります。人間の手で少しずつ時間をかけて観察・管理をし、大人から子どもまで幅広い年齢層で交流しながら次の世代へつないでいくことがとても大切なことであるということや、「水と生き物」はとても大切な関係だということがわかる中身の濃いお話を、熱く語っていただきました。

たくさんの方に参加していただきありがとうございました。

